

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について

調査実施日 平成28年4月19日(火)

調査の目的 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

1 教科に関する調査結果

	国語A	国語B	算数A	算数B
伊勢山小	68	50	73	43
横浜市	72	60	79	49
神奈川県	70	58	77	47
全国	73	58	78	47

2 全国の正答率と比較して

国語

	よい状況	課題と考えられる状況
国語A (主として知識)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く
国語B (主として活用)	活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える	目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く

算数

	よい状況	課題と考えられる状況
算数A (主として知識)	乗法が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる	除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している
算数B (主として活用)	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる	正方形に内接する円の半径について理解している

3 生活習慣・学習習慣（質問紙調査結果）

※質問紙は4段階で問われ、一番目と二番目により状況を合計したものです。

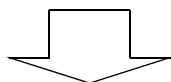
	項 目	伊勢山小	全 国
全国を上回っている状況	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である	58.4	51.7
	家の人と学校での出来事について話をする	81.6	79.2
	家で、学校の授業の予習をしていますか	46.1	43.3
	新聞を読んでいる	27.7	24.0
課題と考えられる状況	家で、学校の授業の復習をしている	40.0	55.2
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	69.2	86.3
	今住んでいる地域の行事に参加している	52.3	67.9
	学校の決まりを守っている	77.0	91.5
	人が困っているときは、進んで助けている	70.8	84.6

- 友達の前で、自分の考えや意見について発表することが得意であると考えている児童の割合は全国平均より高いが、家で学校の授業を復習して学習を定着させていくことに課題がある。
- 家の人と学校での出来事について話をしている児童の割合は全国平均より高い。
- 新聞を読んで、地域や社会で起こっている様々な諸問題について感心をもっている児童が全国平均より高いが、地域行事に参加することについては、全国平均を下回っている。
- 学校の決まりを守ったり、困っている人を助けようとする児童の割合に課題がある。

4 今後の指導の方向性

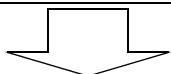
質問紙調査結果から、児童は様々なかたちで自分の考えや意見を表現しようとする意欲がみられた。また、新聞に興味や関心をもち、地域や社会で起きていることを知りたいと考えている反面、自分たちの身近である学校の決まりを守ることや、困っている人を助けようとする気持ちが全国平均よりやや低いことがわかった。まずは、子どもたち一人ひとりが、自己肯定感、有用感をもち、自分のよさを認めることにより、他人を認めたり困っている人を助けようという気持ちが育つと考えている。

そこで、引き続き様々な体験をもとに必要な感や切実感のある学習の充実に努め、自分にも「よいところがある」という自信を培い、何事にも主体的に取り組めるようにしていく必要があると考える。



「体験」と「言語活動」の充実

- 「覚えただけ」「体験しただけ」ではなく、覚えたことを体験を通して確実に身に付ける学習の充実



○体験と言語活動の充実

授業の中で体験的な活動を重視するとともに、言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を意識して取り入れることにより、自分の考えを表現したり、互いの考えや思いが交流したりする授業を行う。

○基礎・基本の定着

朝の学習時間等を活用して繰り返し学習するなど、基礎・基本の定着を図れるようにしていく。また、読書習慣を身に付け情操を育む。同時に、授業中の私語の禁止など規律ある学習態度の形成を図る。

○家庭学習の充実

低学年30分、中学年45分、高学年60分の家庭学習の時間を確保できるよう家庭と連携する。特に高学年においては、自分で計画を立て、主体的に学習に取り組む習慣を身に付け、そのことにより確かな学力が身に付くよう努める。

○教師の研修・研究会の充実

日々の授業を「楽しく分かりやすくなるように」改善するため、日々の授業研究を充実させ、子どもたちが意欲的に授業に取り組み、話を集中して聞けるよう工夫していく。
ノート指導や発問指示、板書事項、ICT活用などを通して授業改善に取り組む。